

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14144

研究課題名(和文) イギリスにおける多様な学習背景を持つ生徒の高大接続制度及びその質保証に関する研究

研究課題名(英文) Research on the Articulation and Quality Assurance System of Pupil from Diverse Educational Background between High School and University

研究代表者

花井 渉 (Hanai, Wataru)

九州大学・人間環境学研究院・准教授

研究者番号：60783107

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、イギリス(主にイングランド)における多様な学習背景を持つ生徒の高大接続制度及びその質保証の実態と課題を明らかにすることである。多様な学習背景をもつ生徒の大学入学者選抜について、イギリスでは2004年にシュワルツ報告が公表されて以降、その中で示された公平なアドミッションのための5つの原則に基づき、アドミッションオフィサー(専門的な入試担当者)の配置や「文脈を考慮したアドミッション」を通じた、合理的な配慮や学力評価のみにとどまらない、潜在能力の評価を通じた選抜が強調されている。これらを通じて多様な学習背景をもつ生徒の大学入学者選抜の公平性を担保していることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて得られた知見として、多様な学習背景をもつ生徒の大学入学者選抜を考える際に、まず制度自体の公平性や透明性を考えることが重要であるという点である。イギリスでは、シュワルツ報告の中で、公平なアドミッションのための5つの原則とガイドラインが定められ、国としての方針が示されている。これにより、アドミッションオフィサーが配置され、多様な資格を認証するための資格枠組みや認証機関が確立され、資格情報の収集分析が行われるようになった。これらの点からも公平なアドミッションのための国としての指針を示すことで、各大学の大学入学者選抜の改善を促し、より多様な学生の受け入れが可能になるのではないかと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to identify the actual situation and challenges of the high school and university articulation system and its quality assurance for students with diverse learning backgrounds in the United Kingdom (mainly in England). Regarding the selection of students with diverse learning backgrounds for university admission, since the publication of the Schwartz Report in 2004, the UK has emphasized the selection of students based on the five principles for fair admission set forth in the report, through the assignment of admission officers (specialized admissions officers) and "contextual admission," which is not limited to special needs and assessment of academic ability, but also through assessment of applicant's potential. Through these efforts, it became clear that the fairness of the university admission process for students with diverse learning backgrounds is ensured.

研究分野：比較教育学

キーワード：高大接続 大学入学者選抜 イギリス 資格認証 国際教育 アドミッションオフィサー 公平性

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

1990年代後半以降、「21世紀型能力」や「コンピテンシー」を育成するためのカリキュラム開発やその評価に基づいた高大接続改革が各国において推進されている。日本においても、2015年(平成27年)1月の高大接続改革実行プランに基づき、高大接続改革の実現に向けた具体的方策についての検討が行なわれ、2016年(平成28年)3月31日に高大接続システム改革「最終報告」が出されている。その中で、今後高校教育では、学習指導要領の改訂や課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学習の推進、大学教育では、ディプロマ、アドミッション及びカリキュラムの各ポリシー(方針)の見直しによる大学教育の質的転換、大学入学者選抜では、大学入学共通テスト、国語や数学での記述式問題の導入、英語では4技能(聞く、読む、話す、書く)を測るために民間の検定試験を活用する等が示され、2024年(平成36年)までの計画が示されている。しかし、現行の高大接続改革は、あくまで国内の高校から大学への接続が想定された改革であり、留学生や帰国生がもつ外国学歴・資格等の認証評価(Foreign/International Credential Evaluation: FCE)は、その射程に入っていない。さらに、将来的にFCEが実現した場合に、それら国内外からの多様な教育資格や学習成果を審査・監督・認証を行なうための専門的な質保証機関の設置については、議論されていない状況であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、イギリス(主にイングランド)における多様な学習背景を持つ生徒の高大接続制度及びその質保証の実態と課題を明らかにすることである。それにより、アカデミックな教育ルートを経て高等教育に進学する生徒を選抜することを想定した従来の大学入学者選抜制度から、職業・専門教育ルートや国際的な学習背景を持つ生徒等の多様な資質・能力の認証評価を射程に入れた、高大接続制度を設計する上での示唆を得ることができる。さらに、このような高等教育進学・入学資格の多様化・複雑化に伴い、それらを整備し、その内容を把握、審査、認証を行ない、後期中等教育段階における資格や試験の水準の監督・維持等を含む質保証を担う専門機関が必要不可欠となる。そこで、本研究では国内外の資格認証評価制度及びその質保証について、イギリスを事例にその実態と課題について検討する。

3. 研究の方法

研究方法として、まず国際教育資格の認証評価やFCE等に関する先行研究、政策文書や報告書、関連資料の収集・分析を行う文献研究とそこで明らかになった点について、現地を訪問し、その関係者へのインタビュー調査を通じて実態や課題を明らかにすることを計画していた。しかし、2019年以降の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴い、現地訪問調査が困難な状況となり、研究計画の見直しを余儀なくされた。そこで、主に文献研究を中心に、多様な学習背景を持つ生徒の高大接続制度及びその質保証を担う、イギリスの大学におけるアドミッション・オフィサーの養成・研修制度について明らかにし、多面的・総合的な評価を進める上で、高校教育段階でどのような課題解決型学習が展開されているのか、そうした高校生たちによる探究の成果を大学入学者選抜の際にどのように評価し、選抜を行なっているのか、その多面的・総合的な評価を実施するにあたり、大学入学者選抜の公平性・公正性が果たしてどのように担保されているのかについて明らかにする研究を進めてきた。

4. 研究成果

多様な学習背景を持つ生徒の選抜を担うアドミッション・オフィサーの養成について、イギリスではアドミッションにおける専門性開発支援(SPA)と呼ばれる専門機関によって研修が行われており、その後大学・カレッジ入学サービス機構(UCAS)にその機能が移行したものの、現在も年次大会の開催、ネットワーキングの機会の提供等を通じて、専門的なアドミッション・オフィサーの養成が行われていることが明らかになった。また、2023年2月に実施した現地訪問調査では、実際にECCTIS主催のアドミッション・オフィサーに研究集会に出席した。その結果、現在アドミッションをめぐるのは、アフリカ地域からの留学生が今後2050年に向けて急速に拡大していくため、そのための受け入れ準備が課題として挙げられていた。また、近年のイギリスでは、民間の英語試験ではなく、各大学独自に開発した英語試験を活用した入学者選抜を実施している大学が増加していることが明らかになった。このような国内における外国語試験の多様化に伴い、今後それらの外国語試験の質保証が課題となると考えられる。

また、大学入学者選抜の公平性・公正性について、イギリスでは2004年にシュワルツ報告が公表されて以降、その中で示された公平なアドミッションのための5つの原則に基づき、アドミッション・オフィサーの配置や「文脈を考慮したアドミッション」(contextual admission)を通じた、合理的な配慮や学力評価のみにとどまらない、潜在能力の評価を通じた選抜が強調されていることが明らかになった。このような学力成績のみではない、文脈の考慮や潜在能力に焦点を当てた選抜制度の整備を通じて、多様な学習背景をもつ生徒の大学入学者選抜の公平性を担保していることが明らかになった。

本研究を通じて得られた知見として、多様な学習背景をもつ生徒の大学入学者選抜を考える際に、まず制度自体の公平性や透明性を考えることが重要であるという点である。イギリスでは、シュワルツ報告の中で、公平なアドミッションのための5つの原則とガイドラインが定められ、国としての方針が示されている。これにより、アドミッション・オフィサーが配置され、多様な資格を認証するための資格枠組みや認証機関が確立され、資格情報の収集分析が行われるようになった。これらの点からも公平なアドミッションのための国としての指針を示すことで、各大学の大学入学者選抜の改善を促し、より多様な学生の受け入れが可能になるのではないかと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Wataru Hanai, Hiroki Nakanishi, Naohiro Iida, Sayaka Mitarai, Masaaki Yanagida	4. 巻 5
2. 論文標題 Bridging the Academic-Vocational Divide in Secondary Education: A Curriculum Analysis of the International Baccalaureate's Career-related Programme in England	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際バカロレア教育研究	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花井 渉	4. 巻 4
2. 論文標題 「総合的な学習の時間」を活用した課題解決型学習の実践-福井県立高校における実践と大学入試への示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学入試センター研究開発部リサーチノート	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花井 渉	4. 巻 27
2. 論文標題 先進国における持続可能な開発目標（SDGs）に基づく教育制度改革の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教育制度学会紀要	6. 最初と最後の頁 234-243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花井 渉	4. 巻 47
2. 論文標題 イギリスにおける専門的なアドミッション・オフィサーの養成・研修に関する研究 - アドミッションにおける専門性開発支援（SPA）に着目して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学入試センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花井涉	4. 巻 3
2. 論文標題 日本の高大接続改革と国際バカロレアを活用した大学入学者選抜の現在	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際バカロレア教育研究	6. 最初と最後の頁 1 - 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 花井涉
2. 発表標題 イギリスにおける高大接続改革の動向 Post Qualification Admission (PQA)改革の議論に着目して
3. 学会等名 日本比較教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花井涉、御手洗明佳、渋谷真樹、赤塚祐哉、木村光宏、井上志音、伊藤建策、田中佳大、菅井篤
2. 発表標題 IBの教育効果に関する調査研究 (定性研究班) 中間報告 - IB教員が学び合う協働体プロジェクト第1回セッションの振り返り -
3. 学会等名 日本国際バカロレア教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Wataru Hanai
2. 発表標題 Current University Admissions Reform in Japan: Holistic and Multi-Dimensional Evaluation
3. 学会等名 Comparative Education Society of Asia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花井 渉
2. 発表標題 大学入学者選抜における公平性・公正性に関する研究 - イギリスの高大接続からの検討 -
3. 学会等名 九州教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花井 渉
2. 発表標題 国際バカロレア導入に伴う教員の変容に関する研究
3. 学会等名 第5回日本国際バカロレア教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 花井 渉
2. 発表標題 国際バカロレア入試の現状と課題 日英における資格認証を中心に
3. 学会等名 広島大学海外高大接続シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田直弘、細尾萌子、田中光晴、花井 渉
2. 発表標題 英・仏・韓における外国・国際資格の認証機関の役割と機能 - 大学入学者選抜・振分け制度における機関の位置づけに焦点を当てて -
3. 学会等名 日本比較教育学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------